

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100758		
法人名	医療法人 高信会		
事業所名	真ごころグループホーム	ユニット名	2号館
所在地	宮崎市大字郡司分乙802		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=4590100758-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は見晴らしの良い高台にあり、ホールから壮大な眺めが広がり、開放感がある。玄関前より歩道を作り安心して散歩や気分転換をしてもらい、利用者様の行動制限をする事無く、自由にユニット内は勿論、外への行き来をされ、一人ひとりにあった支援や関わりを多く持ち、信頼関係を築くように努めている。職員間のほうれん・そうの徹底や利用者様の少しの変化でもミーティングを開き他職種の意見なども聞きながら、サービスの質の向上に努めている。管理栄養士が食事の献立を作成し、新鮮な食材が毎日配送され、安心安全な食事の提供を行っている。当施設の母体は、医療と介護の複合施設を持つ辰元病院であり、利用者様の身体状態の把握、健康管理に努めている。また、協力病院や当グループ内の様々な施設と連携を図り、適切な対応が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市の郊外の高台にあり、市街地が一望できる閑静な場所に立地し、同じ敷地内にある系列の介護付有料老人ホームと連携し2ユニットとして運営している。管理者と職員は運営の基本である理念について、法人全体の理念とは別にユニットごとに理念を作成し、毎年理念の見直しを行い、その理念を携帯し日々確認しながら実践に努めている。また、母体の病院から定期的に往診もあり、急変時の対応についても連携ができています。利用者の高齢化が進んでいるが、職員のケアにより利用者が穏やかに暮らせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットホールへ提示し、理念に基づいたケアは実践出来ているが、就業前の唱和は現在行っていない。ただし、毎月一回のミーティングで再確認をしながら、業務の中で常に理念を意識している。	法人全体の理念とは別に、ユニットごとに独自の理念を作成している。ネームプレートの裏に理念を携帯し、日々確認しながら利用者の心に寄り添ったケアの実践に全員で取り組んでいる。毎年、理念の見直しも行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーやコンビニへ買い物に行ったり、散歩に出掛け近隣の人との会話や交流を図っている。	散歩時に近隣住民との会話や近くのスーパーでの買物時に交流等を行っているが、ホームが高台にあり、近隣に住宅が少ないことから、地域との交流が若干少ない。		ホームの行事に地域住民を招待したり、ボランティアや中学生の研修の受け入れ、保育園児、小学生との交流等、地域とのつながりを持つことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協や地域の催し物に参加させて頂き、他の参加者やその他の方達との会話やゲームをしていく上で、認知症に対する理解を得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実態、評価への取り組み状況、事故やヒヤリハットの報告を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議の開催通知にあらかじめ議題を記載し、会議の活性化を図る取組を行っている。また、災害避難訓練への地元消防団の参加等について話し合い、その話し合いの結果が実現につながっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携している。	市の担当者との連絡や協力関係は、母体の本部が行っており、必要な情報は本部からその都度ホームへ伝達されている。市が主催する研修会等に参加して協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動制限をしないケアに努め、外へ出られる時はさりげなく付き添い自由に散歩をして頂いている。又、遊歩道を作りいつでも安全に散歩が出来るようにしている。	定期的に身体拘束の研修会や勉強会を開催し、職員は身体拘束の弊害について学び理解を深め、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や定例会等で高齢者虐待について学ぶ機会を設け、虐待に対する知識を高めるとともに、認知症に対する理解を深め、虐待防止の徹底を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人様との連絡・連携は密に取り、情報や状態の共有を行っている。又、後見人制度について、定例会やユニット会等で学ぶ機会を設け理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問点や不安な事を尋ね、納得され安心して利用して頂くよう努めている。又、改定があった場合は、速やかに連絡と説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や御家族様がいつでも意見や要望が言いやすいように、雰囲気作りと管理者室に苦情や意見を投かできる箱を設置した。	運営推進会議に家族の代表が参加して、意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族の来訪時に本人を含めて気軽に話し合いができる雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	誰でも意見や提案が言える職場内の雰囲気作りに努め、定例会・ユニット会は勿論その他でも会話をする機会を十分取っている。	毎月開催の職員会議やミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、管理者は年2回、個人面接を行い、個人的な問題から業務についての提案や意見等を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人一人の実績や勤務状況や努力を把握し、年に2回の個人面談を設け目標や向上心を持っているか、やりがいはあるか等を確認しながら就業・環境整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会を増やし、意識や、介護技術向上に努める。又、日々の業務の中で、職員1人一人の実際の力量を把握し、その人に合ったトレーニングを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を増やし、相互訪問等の機会を作り、サービスの質の向上やスキルアップに向け取り組みをしていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時はご本人が少しでも安心出来るような対応に努め不安や困っている事等に耳を傾けながら関わりを多くもち安心出来る関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に御家族が抱えている問題を理解し安心出来る支援方法を一緒に考え支援経過も細目に報告し信頼関係が築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族がまず必要としている支援を見極める為、常に傾聴・観察し柔軟性を持った対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の方と暮らしを共にし楽しさや喜びを分かち合える関係を築けるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人や御家族の状況をよく踏まえたうえで出来る限り共に支えていける関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるような雰囲気作りに努めている。担当職員と一緒に年賀状を書き御家族に送る支援をしている。	家族や友人、知人が気軽にいつでも来訪してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。また、なじみの関係がとぎれないよう年賀状を出す利用者の支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者同士の関係を把握し入居者が孤立する事無く関わり合える様、さりげなくセッティングし見守っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、転居先に情報提供を行っている。又、転居先の必要に応じて情報の再提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話や表情、行動から思いを感じたり聴いたりしている。職員間での情報交換を行っている。また家族からも情報を頂きケアに努めている。		日々の暮らしの中で、利用者の表情や言動から思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報を収集して参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や経過シート等により情報収集を行っている。又、本人や家族からも情報収集し今までの生活に近い生活が継続出来る様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報の共有を職員間で行い、心身の状態や生活リズムの把握に努め変化に気付けるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員から意見を聞き担当者会議で本人の状態にあった介護計画を作成している。状態変化時に見直しを行い介護計画を再作成している。		本人や家族と十分話し合い、職員や関係者の意見や気づきを反映した介護計画を作成している。モニタリングを定期的に行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状態や様子、ケア内容等を個別に記録している。定期的に評価を行い介護計画の見直しに繋げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に協力して頂き、専門職や医療機関のアドバイスを受け連携を図り対応出来るよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で情報を得ながら定期的にボランティアの来苑や地域の行事等に参加し交流出来るよう取り組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や往診希望の方がおられる。家族が付き添われる場合は主治医へと直接、相談される機会がある。	本人や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。母体病院からの往診も定期的により、急変時の対応も連携ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤であり状態変化や気づきを報告・助言を受けられるようにして、状況に応じ医療、看護を受けられるよう支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し情報提供を行っている。入院中は面会の機会を作り病院関係者や家族と情報交換、連携を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には家族、医療機関と相談している。又、医療機関から別の所へ移った時には情報の提供を行っている。	重度化した場合の対応については、利用開始時に本人や家族に方針を説明しているが、主治医との連携や職員をはじめとする受け入れ体制がまだ十分とは言えない。	利用者や家族、主治医、職員、その他関係者と十分話し合い、ホームの力量に応じた指針を作成し、本人や家族に説明の上、支援に取り組むことが望まれる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、緊急時にはマニュアルがあり対応出来るようにしている。外部研修にて救急蘇生法等の勉強の機会を増やし実践できるようにしたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回の避難訓練、年に2回の総合防火訓練を行っている。夜間想定もしており入居者も参加している。反省点も見直している。備蓄の確保も行っている。	総合災害訓練を年2回実施し、火災を想定した避難訓練を毎月行っている。避難訓練には地元消防団も参加し、地域との協力体制の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの気持ちや人格を尊重しながら声掛けを行っている。またプライバシーが守れるよう排泄や入浴は一人づつでの対応としている。	利用者の人格を尊重し、利用者一人ひとりに寄り添った言葉かけや名前の呼び方等に配慮している。特にトイレへの誘導や入浴時には利用者の尊厳を傷つけないケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や行動を観察し声掛けを行いながら希望を聞き、決定権を委ね出来る事は自己にてして頂けるよう支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間が掛かってもいいので利用者が出る事やしたい事等に取り組めるようにしている。利用者のペースに合わせて支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類は本人に選んで頂いている。また爪切り等の整容は職員がする事が多いが髪をといたり出来る事は本人にして頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	小さな音で音楽を流しリラックスした環境で食事して頂く。毎日の献立をボードに書き食事前には説明を行う。利用者にテーブル拭き、食後の食器洗い、おぼん洗いを職員と一緒に頂く。	その日のメニューをホワイトボードに書き込み食事が楽しめるよう工夫をしている。また月に1回は利用者の好みを聞き、ラーメンの日、寿司の日等を設け、食事を楽しめる支援を行っている。後片付けを手伝う利用者もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の進まない方には声掛けを行い慌てさせる事無くゆっくりと摂取して頂く。食後には摂取量を記入し一日を通して状態を把握する。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行い口腔内の観察も行う。出血、口臭がある時には御家族と相談し必要がある時には歯科受診を行う。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	我慢する事が無いよう表情等を日頃から観察し時間等を見計らい声掛け、誘導を行っている。排便では処理の方法が分からなく困惑している場合がある為トイレの中に入り援助する。衛生面での清潔保持に努めている。	利用者個々の表情や行動、言動から排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。紙パンツを減らす取組も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細目に水分補給を行い個人の排泄パターンを理解し腹部の膨満、排泄チェックを行っている。薬の力を借りる事もあるが出来るだけ自力排泄を目指している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全身の清潔保持や状況の確認をする機会でもある為、入浴がスムーズに出来るよう羞恥、プライバシーを守りながら対応している。	入浴は原則週2回としているが、本人の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。入浴を拒む人には、日時を変更したり、音楽を流してリラックスさせる等工夫して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床前に不安の無いようにトイレ誘導の介助を行い定時に巡視を行い睡眠の深さ、夜間不穏無いか確認に努めている。落ち着きのない行動があれば安心して休めるよう温かく汲み取り親密な対応を行う。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配役時には名前を呼びながら薬と本人を確認し服用して頂いている。拒否や吐き出し時には再度確実に確認し空になった袋を間違っていないか、飲み残しはないかの確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある事を勧めたり読書、私物整理やゆっくりテレビ鑑賞等して頂いている。レクリエーションを楽しめるよう準備し飽きが来ないよう工夫し楽しんで頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のタイミングで外出行い外の景色を楽しんで頂き心身のリフレッシュに努めている。好みの買い物やおやつを食べたり外出の支援を行っている。	できるだけ戸外に出かけられるよう年間計画を立て、家族の協力も得て、月に1回はドライブや外食、買物等に出かけている。また、日常的に玄関前の歩道を散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ職員同伴のもとスーパーに買い物に行っている。自分で支払いをして頂き買い物の実感をもてるよう援助を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が取り次ぎし電話で話して頂く事がある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのインテリアを利用者と工作したり清掃を手伝って頂く。空間作りに関わった実感を持って頂けるよう援助している。	採光や湿温、換気等、利用者が快適に生活できるよう配慮している。ホールにはゆったりと過ごせるようにソファが置かれ、壁には利用者と職員が協働で作成した季節感のあるぬり絵が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のテーブルや椅子の配置や向きを変え、テレビを見やすくしたり利用者同士で話しやすい環境作りをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と協力し時計やカレンダー、絵や写真を飾り居心地の良い空間作りをしている。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。部屋には運動器具やテレビ、写真等を持ち込み、安心して生活できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等の場所に表記し分かりやすくしている。また物品は利用者の使いやすい配置にし出来る事が増えるようにしている。			